

みんなの健康ラジオ

『こどもの気管切開』

(2021年7月29日放送)

横浜市耳鼻咽喉科医会

横浜労災病院

塩野 理

気管切開とは？

- 呼吸や嚥下に問題があるとき、のどと肺との途中にバイパスを開けることを気管切開と言う
- 長期間の人工呼吸器管理が必要な場合
- のどの病気で呼吸がしにくい場合
- 嚥下障害のため誤嚥することが多く、気管内の吸引が必要
- 空気が声帯を通らないため、声が出ない

こどもの気管切開

- **生まれつきの病気で気管切開が必要になることがほとんど**
- **脳性まひや遺伝子の病気**
- **超低出生体重児(1kg未満)は肺が未熟なことがあり、人工呼吸器管理が長期に及ぶ場合、気管切開が必要**
- **のどや首に生まれつきの腫瘍があり、空気の通り道が狭い場合にも気管切開が必要**

こどもの気管切開の方法

- こどもののどと大人ののどは別の構造
- 作りが小さい、組織が柔らかい、触診で区別がつきにくい
→より繊細な手術手技が必要
→2.5kgほどに成長してから行われることが多い
- 皮膚、皮下脂肪、のどを動かす筋肉、甲状腺などの組織を切り開き、気管を切開してチューブを入れる
- 将来的に閉鎖できることもあるが、数年～10年に及ぶ在宅での気管切開管理を考慮する必要がある

気管切開の管理

- 気管は軟骨の骨組みがあるが、こどもの気管軟骨は柔らかく、気管切開チューブとぶつかって肉芽(ポリープ)ができるとチューブを交換する際、気管切開の孔が狭くなってしまい、呼吸がしにくくなったりチューブが入れにくくなったり、出血したりする
- 大人よりも吸引した際に気管粘膜が傷つきやすいため注意
- 呼吸や嚥下の問題がなくなれば、声が出るチューブの使用や気管切開そのものを閉鎖することが出来る
→大人よりも難しいことが多い
- 保育園や学校で気管切開のように医療ケアを必要とするお子さんを受け入れる準備はなかなか大変
→多くのご家族が苦勞されているのが現状